令和5年7月20日（木）第30号

福島県教育庁南会津教育事務所　総務社会教育課

読書活動推進NEWS

語り部から聞く震災　　～南会津町立舘岩中学校～

福島県教育委員会では、震災の記憶の風化を防ぐ「復興に向けた学び」を支援するため、読書活動支援者育成事業と併せてこの取組を行っています。域内からは、震災についての記憶がほとんどない生徒に語り部の話を聞かせたい願いから南会津町立舘岩中学校より申請があり、７月 13 日(木)に実施しました。講師を務めていただいたのは震災語り部団体である「富岡町 3･11 を語る会」に所属されている渡辺好さんです。渡辺さんは震災翌日から 13 箇所も住まいを転々とされた自らの経験を、当時の写真やデータを交えながら語ってくださいました。

身振り手振りを交えながらの講話

「生徒はもちろん、先生方にとっても震災について再考する貴重な機会にすることができました」（室井校長先生）

【40cmの地盤沈下】

富岡町では地震直後に約４０ｃｍの地盤沈下が生じました。こんな断層ができたら車や自転車で通行できるか、どう行動するか等について考えています。

【 自分事として考える 】

「ある日突然、このようなバリケードができて、自分の家や敷地に入れなくなったらどうしますか？」。この問いかけに、一瞬ドキッとした表情を浮かべ真剣に考える生徒の姿が見られました。

【 生徒代表より 】

「渡辺さんのお話を聞いて、地震や津波の恐ろしさを改めて感じました。このような災害が起きた際にどのように行動すべきか考えていきたいです。」と話してくれました。

地震と津波、その後の原発事故に伴う避難生活を経験された渡辺さんの言葉一つ一つには不思議な力強さがあり、私たちの心に訴えるものがありました。同じ福島県人として生きる私たちにとって、震災の風化は憂慮すべきことで見過ごすことはできません。また、東日本大震災から 12 年が経過していることで、震災の記憶がない児童生徒が増加しているのも現実です。福島県教育委員会では震災を風化させないための各種取組を、今後も推進して参ります。